

50

二月七日

0423

関

大参普第一二一號

天津事件ノ概況送附ノ件通牒

昭和六年十二月十一日

支那駐屯軍参謀長

武内俊二郎

陸軍次官 杉山元 殿

天津事件ニ就キ當軍ハ外部殊ニ列國側ニ對シ本印刷物ノ通り宣傳  
シツツアリ爲参考送附ス  
三部

別冊  
陸軍部

6.12.24  
136  
陸軍部



陸軍

0425

0424

本事件ノ原因及支那側各方面ノ經過  
 ハ各處當時甚シク不明ニシテ爾後ノ  
 調査ニ依リ概ネ之レヲ明カニスルヲ  
 得タルモ尙疑問ノ點多クモス

天津事件ノ概況

第一、第一次天津事件

昭和六年十月九日

支那駐屯軍司令部

其ノ事件ノ原因

十一月八日夜便衣隊ハ突如天津附近ニ暴動ヲ惹起セリ其ノ團體ハ河北省救國人民自治會ナルモノノ如ク數年來反覆セラレタル反蔣反張運動ノ現レニシテ其ノ目的ハ河北ノ人民ヲ擄取シ今復滿洲事變ヲ惹起シタル張學良政權ヲ打倒シ河北省ハ河北省人ヲシテ自治セントスル政治的團體ヲ主トスルモノナルカ如シ右便衣隊ハ十一月八日夜主力ヲ以テ天津西部八里台方向ヨリ天津城内ニ向ヒ北進シ別ニ支那街各所ニ豫メ潜伏シアリタリト覺シキ部隊ヲ以テ市内各要點ヲ急襲シタルモノノ如ク時ヲ同ウシテ天津公安局、電話交換局、估衣街（繁華ナル商業地帯）等ニ戰鬥ヲ惹起シタルモノノ如シ

日本軍ハ日本租界附近及天津市内ニ於ケル盛ナル銃聲ニヨリ支那街ノ暴動ヲ知り其ノ危險日本租界ニ波及セントセシニヨリ租界保護ノ目的ヲ以テ警備ヲ實施セリ

其二日本軍ノ警備及日支衝突ノ經過

十一月八日午後九時三十分暴徒支那街ニ蜂起シ掠奪ヲ開始シ且公安局保安隊及憲兵ヲ日支境界線ニ配置シ嚴重ニ警戒シアリテ裝甲自動車ハ三不管及金鋼橋ニ在リトノ情報ヲ得タル駐屯軍ハ支那街ノ情況ノ變化ニ就キ注意シアリタル處午後十時半頃速ク支那街ニ銃聲ヲ聞キ次テ同時五十分ニ至ルヤ俄然海光寺兵營西方及西南方地區ニ猛烈ナル銃聲ヲ聞ク此ニ於テ軍ハ日本租界緣端ヲ占領シ右ノ暴動ニ對シ租界竝在留邦人ノ保護ヲ實施スルノ要アルヲ認メ午後十一時警備ヲ下令ス而シテ午後十一時迄ハ租界内及境界ノ警戒ハ領事館警察ノミヲ以テシアリタリ

各部隊ハ九日午前一時乃至三時ノ間ニ租界内緣端ヲ占領スルコトヲ得タルモ既ニ其ノ以前ヨリ右占領線前方至近ノ距離ニ於テ支那公安局保安隊ト暴動便衣隊トハ衝突ヲ惹起シ銃火四方ニ飛フ我警備部隊ハ前記支那部隊ノ銃火ヲ浴ビ大ナル危険ヲ犯シツツ活動シタリ

之ヨリ先軍司令官ハ警備下令ニ方リ軍ノ方針ヲ示シ各部隊ハ本動亂ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ取り濫ニ日支ノ衝突ヲ惹起スヘカラサル旨ヲ命令セルヲ以テ各部隊ハ此ノ方針ヲ遵守シ支那公安局保安隊ノ射撃ヲ蒙リ殊ニ白河ニ近キ警備線ニ立哨セル一兵卒ハ保安隊ノタメ狙撃セラレ即死スル

カ如キ情況ナリシニモ拘ハラス能ク隠忍シ九日午前六時ニ至ル迄日本軍  
 ハ一發ノ射撃ヲモ實施セザリキ  
 軍ハ保安隊ノタメ兵卒ヲ失フヤ日支衝突ヲ防ク絶對的必要上直チニ玉樹  
 常ニ對シ速カニ支那公安局保安隊ヲ日支境界線ヨリ三百米後退シ以テ日  
 支間ニ再ヒ不幸ノ出來セサルヘキヲ要求セリ時正ニ午前二時ナリ然ルニ  
 午前四時ニ至ルモ何等支那側ヨリ回答ナキタメ同時再ヒ交渉スルニ午前  
 六時迄ニ前記ノ行動ヲ取ルヘキ旨回答セリ  
 此ノ間陣地右翼殊ニ支那電話局附近ニ於テハ支那保安隊ノ日本軍ヲ射撃  
 スルコト止マス遂ニ午前五時頃我小隊長タル一曹長モ亦彼等ノ狙撃ニ遭  
 ヒ即死セリ今ヤ租界ハ危險ニ頻シ嚴正中立ヲ確守シ且ツ一發ノ射撃ヲモ  
 爲ササル部隊ニ二名ノ横死者ヲ見タルヲ以テ軍ハ自衛上右ノ危險ヲ防止  
 スルタメ威嚇射撃ヲ決行スルタメ之ヲ準備中玉樹常ヨリ我要求ニ基キ午  
 前六時迄ニ保安隊ヲ後退セシムヘキ回答ニ接セシヲ以テ右ノ處置ヲ中止  
 セシメタリ然ルニ午前七時電話局附近ノ保安隊ノ一部ハ依然後退セス而  
 モ日本軍ヲ射撃スル等支那側ハ誠意ヲ以テ約束ヲ履行セサルヲ以テ軍ハ  
 已ムヲ得ス電話局附近ニ對シ威嚇射撃ヲ實施ス支那側亦盛ニ日本軍ヲ射

撃ス時正ニ午前七時頃ナリ右射撃ハ數分ニシテ中止シ爾後各部隊ノ射撃ヲ禁止シ忠實ニ之ヲ實行セリ然ルニ保安隊ハ午前十時半頃迄各所ニ於テ射撃セリ

九日正午前ヨリ十日早朝迄ハ日支兩軍共射撃セス極メテ平靜ニ經過セシモ十日朝支那側地域ニ於テ各所ニ銃聲ヲ聞キ又保安隊ハ數ヶ所ノ日本兵ヲ狙撃シ我陣地前ニ於テモ時々日本兵ヲ狙撃スル便衣者アリ

十日夜半以來警備全正面前ニ亘リ遠近各種ノ方面ニ於テ銃砲聲猛烈ニシテ拂曉ニ及フ此間保安隊ハ我守備線至近ノ距離ニ近接シ狙撃スルモノ尠カラス其ノ彈丸ハ陣地上ニハ勿論日本租界ニ飛散スト雖モ我兵ハ自重シ射撃ニ應セザリキ

之ヲ要スルニ今ヤ暴徒ノ解決ヲ終リ支那側ノ對照者ノ消滅シタルニモ拘ハラズ第三者ニシテ而モ沈靜ヲ保持シアル日本兵ニ對シ敵意ヲ以テ挑戰的態度ヲ持續セリ

其ニ支那側ノ陳謝屈伏

本事件發生以來支那側ハ彼ヨリ射撃セサルニ付日本側ヨリノ射撃ヲ中止セラレタキ旨申込ミ來レルニモ拘ハラズ連日連夜我租界及陣地ヲ射撃シ

日本ノ抗議ニ對シテハ此レ保安隊ノ所爲ニアラスシテ全く便衣隊ノ爲ス所ナリト陳辯スルヲ常トセリ然ルニ十一月十一日第二軍長河河北省長王樹常及天津戒嚴司令張學銘ハ日支衝突防止ノタメ先ツ兩軍射撃中止ヲ約束セリ次ヲ支那側ノ申出ニヨリ彼我陣地中間三百米ノ地帯ニ潛在スル便衣隊ヲ掃蕩シ其ノ地區ニ支那巡警ヲ配置シ以テ支那側射撃ノ原因ヲ除去スルコトニ着手スルコトトナリ十三日日支委員立會ノ下ニ之ヲ實行シタル處實ニ意外ニモ支那側ハ約束ヲ破リ既ニ右中間地區ニ工事ヲ施シ防禦施設ヲ行ヒアルコト、多數ノ保安隊及軍隊ヲ入レ且該地區ニ一名ノ便衣隊員モナキコト發覺シ彼等ノ不信虛偽ヲ列國ニ暴露セルノミナラス茲ニ便衣隊潛伏ヲ口實トセル支那側ノ射撃ハ明白ニ日本軍ヲ目標ニ支那保安隊(軍隊ヲ以テ變裝シアルモノ多シ)カ射撃シタルコトヲ暴露セリ

於此王樹常ハ大ニ狼狽シ十五日自ラ日本軍司令部ニ香椎司令官ヲ訪問シ事件以來ノ支那側ノ不信行動ヲ陳謝シ且左ノ件ヲ約束セリ

一 日本軍ニ對スル侮辱的語言ヲ嚴ニ取締ルコト

一 日本租界ヲ距ル三百米以内ノ線及日本租界ニ向ヒ新ニ實施セル軍事施設及行動ヲ撤去スルコト

右ノ地域ニ公安局保安隊ヲ入レサルコト  
 右ノ外王樹常ハ天津日本總領事ノ抗議シタル天津二十支里問題ヲ承認セ  
 リ  
 爾後ト雖時々軍及日本租界ニ向ツテ射撃スルモツアリシモ大體ニ於テ沈  
 靜ニ歸セリ



## 第二、第二次天津事件

## 其一、事件ノ發端

支那側ハ十一月十五日ノ約束ニ基キ軍事施設及行動ヲ撤去スヘク着手シタルモ遲々トシテ進捗セサシ拘ラス我軍ハ速カニ天津ノ平和状態ヲ回復スル爲メ警備、交通、商業等ヲ總テ平常状態ノ恢復ニ努メ兵力ヲ後方ニ集結、道路交通ヲ開放シ二十六日午后ニ至リ終ニ我義勇隊ヲモ解散シタリ

二十六日夜突如トシテ我陣地左翼前方ノ支那軍ハ我陣地ニ向ヒ射撃ヲ開始シ瞬時ニシテ我陣地全面射撃ヲ蒙ルニ至レリ軍ハ茲ニ斯克ノ如キ支那側ノ暴戾ナル挑戰行動惡ミテモ餘リアル欺シ討ニ對シ止ムヲ得ス自衛權ヲ行使シ當面ノ支那兵ヲ膺懲スルニ至レリ時ニ午后九時半支那側ハ常ニ射撃ノ口實ヲ便衣隊出現ニ藉ルト雖モ第二回事件當初ノ如キハ疑モナク全ク虚言ニシテ日本側カ便衣隊ヲ使用セリト稱シアルハ造謠モ甚シク後日公安局長ハ之ニ關スル我軍ノ抗議ニ對シ深ク省察シ言論機關等ヲ取締ルヘキロトヲ言明セシ程ナリ

右ノ如ク第二次事件ノ發端ハ實ニ支那側ノ計畫的對日攻撃ナリ

## 其ニ事件ノ經過

一度休止ノ状態ニ在リシ我軍ハ直チニ警備線ニ就キ支那軍ニ應射セリ支那軍ハ小銃、輕重機關銃ノミナラス火炮ヲ使用セルヲ以テ我軍亦火炮ヲ以テ應射シ戰鬪激烈ナリ

二十七日ニ至ルモ支那側ハ射撃ヲ中止セス明カニ日本軍ニ對シ敵對行動ニ出テアルコトヲ認メラルルヲ以テ軍司令官ハ王樹常ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出ス

我カ海軍ハ第一次以來塘沽及秦阜島ニ驅逐艦ヲ派遣シ海港及白河航行ノ我船舶及居留日本人ノ保護ニ任シツツアリシカ二十七日午後二十八日午前ニ亘リ右驅逐艦ハ陸戰隊ヲ來津セシメ租界警備ニ當ル

二十八日期ニ至ルモ彼我ノ射撃依然トシテ猛烈ナリ我軍ハ支那街ニ散在スル列國人竝其ノ財産ニ危害ヲ加ヘンコトヲ憂慮シ之ヲ避ケンカ爲メ列國領事ニ通牒スルニ二十八日夕迄ニ危險地域ニ在ル列國人及外國所屬物件ニ對シ危害豫防ノ爲メ適當ノ處置ヲ執ラレン事ヲ要求セリ  
彼我ノ射撃ハ二十八日夕ニ至ルモ尙熾マス

其ニ支那側ノ屈伏竝日本軍ノ増兵

義ニ軍司令官ハ日支兩軍ノ衝突ヲ避クル目的ヲ以テ抗議スル所アリシカ  
 十一月二十七日王樹常ハ極メテ誠意ナキ回答ヲ寄セタルヲ以テ二十八日  
 更ニ嚴重ニ我抗議ヲ履行スヘク再警告セリ

二十九日朝支那側ハ代表ヲ我軍司令部ニ差遣シ我抗議ノ一タル武装保安  
 隊ヲ南運河以北ニ撤退セシメ且市内ニ設置シタル全部ノ防禦施設ヲ撤去  
 スヘキコトヲ承認シタリ右撤去作業ハ二十九日午後ヨリ着手シ十二月三  
 日之カ大體ヲ終了セルカ如シト雖各種ノ情報ハ軍服ヲ便衣ニ代ヘタル多  
 數軍隊ノ來津又ハ保安隊ト軍隊トノ服裝交換等ノ事實ヲ傳ヘアルヲ以テ  
 軍トシテハ注意ヲ怠ラサル事必要ナリ

而シテ本事件ニ關スル解決ハ之ヲ以テ終了シタルニアラス現ニ日支兩當  
 事者ハ本事件ノ解決條件ニツキ交渉ヲ繼續シツツアリ

天津ニ駐屯スル日本軍ハ約五百ヲ算スルニ過キス之ヲ以テ六千ノ居留民  
 ト周圍四吉米ノ租界トノ警備ニ任スルコト茲ニ二旬ヲ超エ支那側ハ公安  
 局警察ノミニテ約六千天津ヲ距ル半日行程以内ノ地域ニ約三四萬ノ支那  
 正規軍アリ我軍ハ數ニ於テ比較スヘカラサル支那軍ヲ恐レスト雖モ長期  
 ニ亘ル勤務ヲ顧慮シ十二月一日朝歩兵一大隊ノ増兵ヲ見タリ是レ全ク在

北支居留民保護ノ目的ニシテ條約上増兵ノ數ニ制限ヲ有セス且之ヲ加フ  
ルモ日本軍ノ兵力ハ佛米國ノ現在員ヨリモ少數ナリ

## 第三、結 言

第一次天津事件ハ事支那軍及反動團體相互ノ鬭争ニ屬ス支那一流ノ遺毒  
 宣傳機關ハ之ヲ以テ日本ニ關係アリト宣傳シアルモ所謂惡宣傳ニ過キス  
 其ノ眞偽ハ更ニ辯明ノ要ナシ支那側當事者モ亦之ヲ認ムル所ナリ

第一次第二次事件ヲ通シ支那側ノ爲シタル背信非文明的行動ハ實ニ枚舉  
 ニ邊アラス此ノ如キ支那官憲、軍隊、警察、民衆ハ未タ嘗テ地球上ニ發  
 見シタルコトナク彼等ヲ文明國家ノ官吏、軍隊、警察乃至民衆トシテ同  
 等ノ地位ニ於テ取扱フカ如キハ錯誤モ亦甚シキモノト謂フヘク殊ニ保安  
 隊ノ如キ一ツノ警察機關ト稱スルモ其實ハ編成裝備共ニ軍隊以上ニシテ  
 而モ土匪以上ノ厄介物タル實ニ前代未聞ノ代物ナリ

滿洲事變ハ勿論天津事件ニ就キ正確ナル認識ト公正ナル批判ヲ與ヘント  
 セハ須ヘカラク右ノ如キ亂脈極リナキ支那人ノ特性ニ理解ヲ持ツコト必  
 要ナリ

試ミニ本事件中ニ起リタル支那側ノ非文明、不正義ノ主ナルモノヲ列舉  
 スレハ左ノ如シ

一、口ニ便衣隊ヲ射撃スト稱シ事實ニ於テ盛ニ日本軍ヲ目標トシテ射撃セ

セシヨト而シテ日本側ヨリ口ヲ極メテ射撃ノ禁止ヲ要求セルモ仰々ニ射撃機マズ支那側之ヲ便衣隊ノ擾亂ナリト稱セルモ二十九日夜保安隊ノ河北撤退以來今日迄一發ノ銃聲セザル事等ヨリセハ支那側ノ不信保安隊ノ素質彼等ノ所謂便衣隊ノ本質明カナルヘシ

三 責任者ハ部下ヲシテ射撃セシメスト約束シ乍ラ敢ヘテ之ヲ守ラス然諾ヲ重スルノ精神ハ彼等ニ乏シ片鱗ヲモ有セス又一面上官ノ命令ハ到底部下ニ徹底セス部下ニ勝手ニ軌外ノ行動ニ出ツルヲ以テ責任者相互ノ約束ノ如キハ一枚ノ紙屑ニ過キス

四 三百米ノ中立地帯ノ全保安隊及全陣地ヲ撤去スルノ約束ヲ守ラス秘密裡ニ多數ノ部隊及正規軍ヲ入レ莫大ナル工事ヲ實施シアリタリ

五 天津二十支里問題ヲ確實ニ履行スルコトヲ公約シ乍ラ依然之レヲ守ラス軍隊ヲ天津市内ニ駐編セシメ其ノ最モ甚シキハ軍隊ヲシテ保安隊ノ服装ヲ爲サシメ日本軍陣地前ニ配置セリ我方ヨリ之ヲ詰問スルコト敢次ナルモ敢ヘテ反省セス

六 赤十字旗ヲ掲ケタル保安隊員若干名ハ我陣地前二三百米迄接近シ突如我陣地ヲ射撃ス是レ國際公法ニ違反セルモノニシテ人道上默許シ難シ

保安隊數十名ハ猥リニ米國々旗ヲ掲揚シ我射撃ヲ避ケントシ或ハ外國  
關係ノ建築物等ニ殊更ニ近ク陣地ヲ構成シ之レヨリ盛ンニ射撃ヲ加ヘ  
タリ之レカタメ天津米國領事ハ支那側ニ抗議セリ

日支兩軍軍使支那街ニ於テ交渉後日本軍軍使我カ陣地内ニ歸ラントス  
ルヤ支那兵ハ後方ヨリ之レヲ射撃ス國際公法ヲ蹂躪スルモノナリ

白河ノ船舶航行ハ條約上其ノ自由ヲ認メラレアルニ不拘葛沽ニ於テ支  
那軍ハ事件發生以來日本船ニ停船ヲ命シ之レニ服ササルモノニ對シテ  
射撃セリ又旅客及荷物ヲ臨檢シ且ツ支那船員ヲ脅迫セリ

日本軍ニ屈服セル支那人ハ之ニ關シ支那官憲ヨリ束縛セラレサルハ條  
約ノ認ムル所ナルニモ不拘日本軍ニ使用セラレアルノ理由ノ下ニ殺害  
セラレ或ハ脅迫セラレタルモノアリ

二十八日日本軍ハ支那街居住外人避難ノ爲一發ノ應射ヲナサザリシニ  
支那側ハ却テ此ノ機ヲ利用シ陣地ヲ増築シ我ヲ狙撃シ現ニ午前十一時  
十五分我歩哨ハ美以美教會(米國系)前ヨリ狙撃セラレ兵一重傷ヲ負  
フニ至レリ

支那軍ハ我威重ナル抗議ニモ不拘常ニ南開女子中學ヨリ軍司令部方向

ニ財糧ノ其ノ彈丸ハ家屋ヲ焼ケ身佛眞陣地ニ落達シ其他各國ヲ飛  
來ス



## 北支支那軍憲民衆ノ對日態度

本年六月朝鮮事件、中村大尉事件等惹起スルヤ北支軍憲、民衆從來ノ排日、侮日ノ傾向ハ更ニ倍加シタリ途中石友三事件ノタメ一時鎮靜ニ歸シタルモ之カ終局ヲ見ルヤ果然再燃シ黨部及民衆ハ激烈ナル日貨排斥ヲ斷行シ支那官憲ハ我カ外交官憲ノ警告ヲ受クルコト數次ナルニモ拘ハラス怙然トシテ改ムル處ナシ

他面支那官憲、軍隊ノ日本軍ニ對スル侮辱的態度益露骨ナルモノアリテ軍人中對日宣戰ヲ呼號スルモノ少ナカラサルニ至レリ山海關附近ニ於テ支那軍隊カ我鐵道守備部隊ノ鐵道橋通過ヲ兵器ヲ擁シテ拒止シタルカ如キハ其ノ一例ニシテ帝國軍ノ有スル條約上ノ權利ヲ求メテ蹂躪セントスル傾向ニアリキ又天津、北京、山海關、秦皇島、塘沽守備隊間ノ連絡兵等カ支那軍人ノ侮辱ヲ蒙ル事頻々トシテ此儘ニ推移セハ兩者ノ衝突惹起ノ虞アリシヲ以テ終ニ其ノ兵力ヲ増加セサルヲ得サルニ至レル等軍ニ對スル侮辱的行動尠カラサルニ至レリ又滿洲事變後ハ對日侮辱事件益増加シ軍人、市黨部又ハ學生ハ公然對日宣戰ヲ絶叫シテ敵愾心ヲ煽リ特ニ婦人、小兒等ニ對スル暴行續出スルニ至レリ

右ノ如キ支那側ノ態度ハ實ニ公明ナルヘキ國交ノ軌外ニ出テタルモノニシ

テ條約ヲ無視シ經濟的ニ宣戰シ我帝國ノ名譽ヲ傷クルモノナリ  
 此ノ如キ狀態ニ於テ天津事件ヲ惹起シタリ事件中ニ於ケル支那側ノ態度亦  
 前述ノ如シ依之觀之將來ニ於ケル支那側ノ對日態度想半ニ過クルモノナリ

## 第四、軍ノ方針

軍ハ終始嚴正中立ニシテ支那側ノ何レノ行動ニモ干與セス殊ニ屢次ノ支那側ノ不法暴戾ナル挑戰ニ拘ラス隱忍自重只管消極的ニ居留民ノ保護、租界ノ掩護ヲ爲スニ止メタリ

此レ蓋シ天津附近カ各國人錯綜居住シアルニ鑑ミ軍トシテハ友邦各國ノ人命及利益ヲ尊重シ其ノ安寧福祉ヲ亂ササランコトヲ切ニ希望シタルト事態擴大シ日支間ノ大不祥事トナルヲ極力避ケントスルノ結果忍マ可カラサルヲ忍ヒ多數ノ死傷者ヲ出シ憤激スル第一線ヲ極力抑制シ其ノ應射ノ如キモ眞ニ止ムヲ得サル時ノ外此レヲ爲サシメサリキ

抑我陸軍一貫ノ精神タルヤ不法ノ挑戰ニ對シテハ對手ノ兵力ノ如何ニ大ナルニ不拘敢然立チテ之レヲ擊チ全滅亦意トスル所ニアラス一意正義ヲ擁護スルニアリ如此精神ヲ有スル軍隊ヲ以テ前記ノ如キ侮辱ニ甘ンシ專心消極態度ニ終始スルコトハ實ニ至難中ノ至難ニ屬シタリ

今ヤ當地方ハ平靜ニ復歸シツツアリト雖モ濟南虐殺事件ヲ始メ滿洲ニ於テモ當地方ニ於テモ支那側ノ不信的行爲ニヨル苦汁ヲ屢滿喫シ來レル日

本軍カ其ノ和平的態度ニ拘ラズ將來又支那軍キ依ツテ挑戰的、背信的行  
爲ヲ繰返サルルニ當リ幾何程度ニ隱忍シ得ルヤハ自ラ疑ハサルヲ得ス如  
此場合吾人ハ事端發生ノ責任ニ關シ全然關知スル能ハサルモノナリ

0443 0444

得ルモ尙疑問ノ點少ラス  
ハ、依リ概ネ之レヲ明カニスルヲ  
ハ、當時甚シク不明ニシテ爾後ノ  
ハ、原因及支那側各方面ノ經過

天津事件ノ概況

昭和六年五月十日

第一、第一次天津事件

支那駐屯軍司令部

其下事件ノ原因

十一月八日夜便衣隊ハ突如天津附近ニ暴動ヲ惹起セリ其ノ團體ハ河北省救國人民自治會ナルモノノ如ク數年來反覆セラレタル反蔣反張運動ノ現レニシテ其ノ目的ハ河北ノ人民ヲ擄取シ今復滿洲事變ヲ惹起シタル張學良政權ヲ打倒シ河北省ハ河北省人ヲシテ自治セントスル政治的團體ヲ志トスルモノナルガ如シ右便衣隊ハ十一月八日夜主力ヲ以テ天津西部八里台方向ヨリ天津城内ニ向ヒ北進シ別ニ支那街各所ニ豫メ潜伏シアリタリト覺シキ部隊ヲ以テ市内各要點ヲ急襲シタルモノノ如ク時ヲ同ワシテ天津公安局、電話交換局、估衣街（繁華ナル商業地帯）等ニ襲撃ヲ惹起シタルモノノ如シ

日本軍ハ日本租界附近及天津市内ニ於ケル盛ナル統聲ニヨリ支那街ノ暴動ヲ知り其ノ危險日本租界ニ波及セントセシニヨリ租界保護ノ目的ヲ以テ警備ヲ實施セリ

其二、日本軍ノ警備及日支衝突ノ經過

十一月八日午後九時三十分暴徒支那街ニ蜂起シ掠奪ヲ開始シ且公安局保安隊及憲兵ヲ日支境界線ニ配置シ嚴重ニ警戒シアリテ装甲自動車ハ三不管及金鋼橋ニ在リトノ情報ヲ得タル駐屯軍ハ支那街ノ情況ノ變化ヲ就キ注意シアリタル處午後十時半頃遠ク支那街ニ銃聲ヲ聞キ次テ同時五十分ニ至ルヤ俄然海光寺兵營西方及西南方地區ニ猛烈ナル銃聲ヲ聞ク此ニ於テ軍ハ日本租界緣端ヲ占領シ右ノ暴動ニ對シ租界並ニ在留邦人ノ保護ヲ實施スルノ要アルヲ認メ午後十時警備ヲ下令ス而シテ午後十一時迄ハ租界内及境界ノ警戒ハ領事館警察ノミヲ以テシアリタリ

各部隊ハ九日午前一時乃至三時ノ間ニ租界内緣端ヲ占領スルコトヲ得タルモ既ニ其ノ以前ヨリ右占領線前方至近ノ距離ニ於テ支那公安局保安隊ト暴動便衣隊トハ衝突ヲ惹起シ銃火四方ニ飛ブ我警備部隊ハ前記支那部隊ノ銃火ヲ浴ビ大ナル危險ヲ犯シツツ活動シタリ

之ヨリ先軍司令官ハ警備下令ニ方リ軍ノ方針ヲ示シ各部隊ハ本動亂ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ取り濫ニ日支ノ衝突ヲ惹起スヘカラサル旨ヲ命令セラルヲ以テ各部隊ハ此ノ方針ヲ遵守シ支那公安局保安隊ノ射撃ヲ蒙リ殊ニ白河ニ近キ警備線ニ立哨セル一兵卒ハ保安隊ノタメ狙撃セラレ即死スル

如キ情況ナリシニモ拘ハラス能ク隱忍シ九日午前六時ニ至ル迄日本軍  
 ハ一發ノ射撃ヲモ實施セザリキ  
 軍ハ保安隊ノタメ兵卒ヲ失フヤ日支衝突ヲ防ク絶對的必要上直チニ玉樹  
 常ニ對シ速カニ支那公安局保安隊ヲ日支境界線ヨリ三百米後退シ以テ日  
 支間ニ再ヒ不幸ノ出來セサルヘキヲ要求セリ時正ニ午前二時ナリ然ルニ  
 午前四時ニ至ルモ何等支那側ヨリ回答ナキタメ同時再ヒ交渉スルニ午前  
 六時迄ニ前記ノ行動ヲ取ルヘキ旨回答セリ  
 此ノ間陣地右翼殊ニ支那電話局附近ニ於テハ支那保安隊ノ日本軍ヲ射撃  
 スルコト止マズ遂ニ午前五時頃我小隊長タル一曹長モ亦彼等ノ狙撃ニ遭  
 ビ即死セリ今ヤ租界ハ危險ニ頻シ嚴正中立ヲ確守シ且ツ一發ノ射撃ヲモ  
 爲ササル部隊ニ二名ノ横死者ヲ見タルヲ以テ軍ハ自衛上右ノ危險ヲ防止  
 スルタメ威嚇射撃ヲ決行スルタメ之ヲ準備中玉樹常ヨリ我要求ニ基キ午  
 前六時迄ニ保安隊ヲ後退セシムヘキ回答ニ接セシヲ以テ右ノ處置ヲ中止  
 セシメタリ然ルニ午前七時電話局附近ノ保安隊ノ一部ハ依然後退セズ而  
 モ日本軍ヲ射撃スル等支那側ハ賊意ヲ以テ約束ヲ履行セサルヲ以テ軍ハ  
 已ムヲ得ス電話局附近ニ對シ威嚇射撃ヲ實施ス支那側亦盛ニ日本軍ヲ射



撃ス時正ニ午前七時頃ナリ右射撃ハ數分ニシテ中止シ爾後各部隊ノ射撃ヲ禁止シ忠實ニ之ヲ實行セリ然ルニ保安隊ハ午前十時半頃迄各所ニ於テ射撃セリ

九日正午前ヨリ十日早朝迄ハ日支兩軍共射撃セス極メテ平靜ニ經過セシモ十日朝支那側地域ニ於テ各所ニ銃聲ヲ聞キ又保安隊ハ數ヶ所ノ日本兵ヲ狙撃シ我陣地前ニ於テモ時々日本兵ヲ狙撃スル便衣者アリ

十日夜半以來警備全正面前ニ亘リ遠近各種ノ方面ニ於テ銃砲聲猛烈ニシテ拂曉ニ及フ此間保安隊ハ我守備線至近ノ距離ニ近接シ狙撃スルモノ妙カラス其ノ彈丸ハ陣地上ニハ勿論日本租界ニ飛散スト雖モ我兵ハ自重シ射撃ニ應セサリキ

之ヲ要スルニ今ヤ暴徒ノ解決ヲ終リ支那側ノ對照者ノ消滅シタルニモ拘ハラズ第三者ニシテ而モ沈靜ヲ保持シアル日本兵ニ對シ敵意ヲ以テ挑戰的態度ヲ持續セリ

### 其二 支那側ノ陳謝屈伏

本事件發生以來支那側ハ彼ヨリ射撃セサルニ付日本側ヨリノ射撃ヲ中止セラレタキ旨申込ミ來レルニモ拘ハラズ連日連夜我租界及陣地ヲ射撃シ

日本ノ抗議ニ對シテハ此レ保安隊ノ所爲ニアラスシテ全ク便衣隊ノ爲ス所ナリト陳辯スルヲ常トセリ然ルニ十一月十一日第二軍長河北省長王樹常及天津戒嚴司令張學銘ハ日支衝突防止ノタメ先ツ兩軍射撃中止ヲ約束セリ次テ支那側ノ申出ニヨリ彼我陣地中間三百米ノ地帯ニ潛在スル便衣隊ヲ掃蕩シ其ノ地區ニ支那巡警ヲ配置シ以テ支那側射撃ノ原因ヲ除去スルコトニ着手スルコトトナリ十三日日支委員立會ノ下ニ之ヲ實行シタル處實ニ意外ニモ支那側ハ約束ヲ破リ既ニ右中間地區ニ工事ヲ施シ防禦施設ヲ行ヒアルコト、多數ノ保安隊及軍隊ヲ入レ且該地區ニ一名ノ便衣隊員モナキコト發覺シ彼等ノ不信虛偽ヲ列國ニ暴露セルノミナラス茲ニ便衣隊潛伏ヲ口實トセル支那側ノ射撃ハ明白ニ日本軍ヲ目標ニ支那保安隊(軍隊ヲ以テ變裝シアルモノ多シ)ガ射撃シタルコトヲ暴露セリ

於此王樹常ハ大ニ狼狽シ十五日自ラ日本軍司令部ニ香椎司令官ヲ訪問シ事件以來ノ支那側ノ不信行動ヲ陳謝シ且左ノ件ヲ約束セリ

一日本軍ニ對スル侮辱的語言ヲ嚴ニ取締ルコト

一日本租界ヲ距ル三百米以内ノ線及日本租界ニ向ヒ新ニ實施セル軍事施設及行動ヲ撤去スルコト

一 右地域ニ公安局保安隊ヲ入レサルコト  
 右ノ外王樹常ハ天津日本總領事ノ抗議シタル天津二十支里問題ヲ承認セ  
 リ  
 爾後ト雖時々軍及日本租界ニ向ツテ射撃スルモソアリシモ大體ニ於テ沈  
 靜ニ歸セリ

## 第二、第二次天津事件

## 其一、事件ノ發端

支那側ハ十一月十五日ノ約束ニ基キ軍事施設及行動ヲ撤去スヘク着手シタルモ遲々トシテ進抄セサシ拘ラス我軍ハ速カニ天津ノ平和状態ヲ回復スル爲メ警備、交通、商業等ヲ總テ平常状態ノ恢復ニ努メ兵力ヲ後方ニ集結、道路交通ヲ開放シ二十六日午後ニ至リ終ニ我義勇隊ヲモ解散シタ

二十六日夜突如トシテ我陣地左翼前方ノ支那軍ハ我陣地ニ向ヒ射撃ヲ開始シ瞬時ニシテ我陣地全面射撃ヲ蒙ルニ至レリ軍ハ茲ニ斯クノ如キ支那側ノ暴戾ナル挑戦行動惡ミテモ餘リアル歎シ討ニ對シ止ムヲ得ス自衛權ヲ行使シ當面ノ支那兵ヲ膺懲スルニ至レリ時ニ午後九時半支那側ハ常ニ射撃ノ口實ヲ便衣隊出現ニ藉ルト雖モ第二回事件當初ノ如キハ疑モナク全ク虚言ニシテ日本側カ便衣隊ヲ使用セリト稱シアルハ造謠モ甚シク後日公安局長ハ之ニ關スル我軍ノ抗議ニ對シ深く省察シ言論機關等ヲ取締ルヘキコトヲ言明セシ程ナリ

右ノ如ク第二次事件ノ發端ハ實ニ支那側ノ計畫的對日攻撃ナリ

## 其ニ事件ノ經過

一度休止ノ状態ニ在リシ我軍ハ直チニ警備線ニ就キ支那軍ニ應射セリ支那軍ハ小銃、輕重機關銃ノミナラス火炮ヲ使用セルヲ以テ我軍亦火炮ヲ以テ應射シ戰鬪激烈ナリ

二十七日ニ至ルモ支那側ハ射撃ヲ中止セス明カニ日本軍ニ對シ敵對行動ニ出テアルコトヲ認メラルルヲ以テ軍司令官ハ王樹常ニ對シ嚴重ナル抗議ヲ提出ス

我カ海軍ハ第一次以來塘沽及秦阜島ニ驅逐艦ヲ派遣シ海港及白河航行ノ我船舶及居留日本人ノ保護ニ任シツツアリシカ二十七日午後二十八日午前ニ亘リ右驅逐艦ハ陸戰隊ヲ來津セシメ租界警備ニ當ル

二十八日朝ニ至ルモ彼我ノ射撃依然トシテ猛烈ナリ我軍ハ支那街ニ散在スル列國人竝其ノ財産ニ危害ヲ加ヘンコトヲ憂慮シ之ヲ避ケンカ爲メ列國領事ニ通牒スルニ二十八日夕迄ニ危險地域ニ在ル列國人及外國所屬物件ニ對シ危害豫防ノ爲メ適當ノ處置ヲ執ラレン事ヲ要求セリ  
彼我ノ射撃ハ二十八日夕ニ至ルモ尙熾マス

其ニ支那側ノ屈伏竝日本軍ノ増兵

義ニ軍司令官ハ日支兩軍ノ衝突ヲ避クル目的ヲ以テ抗議スル所アリシカ  
十一月二十七日王樹常ハ極メテ誠意ナキ回答ヲ寄セタルヲ以テ二十八日  
更ニ嚴重ニ我抗議ヲ履行スヘク再警告セリ

二十九日朝支那側ハ代表ヲ我軍司令部ニ差遣シ我抗議ノ一タル武装保安  
隊ヲ南運河以北ニ撤退セシメ且市内ニ設置シタル全部ノ防禦施設ヲ撤去  
スヘキコトヲ承認シタリ右撤去作業ハ二十九日午後ヨリ着手シ十二月三  
日之カ大體ヲ終了セルカ如シト雖各種ノ情報ハ軍服ヲ便衣ニ代ヘタル多  
數軍隊ノ來津又ハ保安隊ト軍隊トノ服装交換等ノ事實ヲ傳ヘアルヲ以テ  
軍トシテハ注意ヲ怠ラサル事必要ナリ

而シテ本事件ニ關スル解決ハ之ヲ以テ終了シタルニアラス現ニ日支兩當  
事者ハ本事件ノ解決條件ニツキ交渉ヲ繼續シツツアリ

天津ニ駐屯スル日本軍ハ約五百ヲ算スルニ過キス之ヲ以テ六千ノ居留民  
ト周圍四吉米ノ租界トノ警備ニ任スルコト茲ニ二旬ヲ超エ支那側ハ公安  
局警察ノミニテ約六千天津ヲ距ル半日行程以内ノ地域ニ約三四萬ノ支那  
正規軍アリ我軍ハ數ニ於テ比較スヘカラサル支那軍ヲ恐レスト雖モ長期  
ニ亘ル勦務ヲ顧慮シ十二月一日朝歩兵一大隊ノ増兵ヲ見タリ是レ金ク在

北支居留民保護ノ目的ニシテ條約上増兵ノ數ニ制限ヲ有セス且之ヲ加フ  
ルモ日本軍ノ兵力ハ佛米國ノ現在員ヨリモ少數ナリ

## 第三、結 語

第一次天津事件ハ事支那軍及反動團體相互ノ鬭争ニ屬ス支那一流ハ道義宣傳機關ハ之ヲ以テ日本ニ關係アリト宣傳シアルモ所謂惡宣傳ニ過キス其ノ眞偽ハ更ニ辯明ノ要ナシ支那側當事者モ亦之ヲ認ムル所ナリ

第一次第二次事件ヲ通シ支那側ノ爲シタル背信非文明的行動ハ實ニ枚擧ニ遑アラズ此ノ如キ支那官憲、軍隊、警察、民衆ハ未タ嘗テ地球上ニ發見シタルコトナク彼等ヲ文明國家ノ官吏、軍隊、警察乃至民衆トシテ同等ノ地位ニ於テ取扱フカ如キハ錯誤モ亦甚シキモノト謂フヘク殊ニ保安隊ノ如キ一ツノ警察機關ト稱スルモ其實ハ編成裝備共ニ軍隊以上ニシテ而モ土匪以上ノ厄介物タル實ニ前代未聞ノ代物ナリ

滿洲事變ハ勿論天津事件ニ就キ正確ナル認識ト公正ナル批判ヲ與ヘントセハ須ヘカク右ノ如キ亂脈極リナキ支那人ノ特性ニ理解ヲ持ツコト必要ナリ

試ミニ本事件中ニ起リタル支那側ノ非文明、不正義ノ主ナルモノヲ列擧スレハ左ノ如シ

一、口ニ便衣隊ヲ射撃スト稱シ事實ニ於テ盛ニ日本軍ヲ目標トシテ射撃セ



一 射撃ト師シテ日本側ヨリ口ヲ極メテ射撃ノ禁止ヲ要求セルモ伸々ニ  
 射撃機マス支那側之ヲ便衣隊ノ擾亂ナリト稱セルモ二十九日夜保安隊  
 ノ河北撤退以來今日迄一發ノ銃聲セサル事等ヨリセハ支那側ノ不信保  
 安隊ノ素質彼等ノ所謂便衣隊ノ本質明カナルヘシ  
 二 責任者ハ部下ヲシテ射撃セシメスト約束シ乍ラ敢ヘテ之ヲ守ラス然諾  
 ヲ重スルノ精神ハ彼等ニハソノ片鱗ヲモ有セス又一面上官ノ命令ハ到底邪  
 下ニ倣定セス部下ニ勝手ニ軌外ノ行動ニ出ツルヲ以テ責任者相互ノ約  
 束ノ如キハ一枚ノ紙屑ニ過キス  
 三 三百米ノ中立地帯ノ全保安隊及全陣地ヲ撤去スルノ約束ヲ守ラス秘密  
 裡ニ多數ノ部隊及正規軍ヲ入レ莫大ナル下事ヲ實施シテアリタリ  
 四 天津二十支里問題ヲ確實ニ履行スルコトヲ公約シ乍ラ依然之レヲ守ラ  
 以軍隊ヲ天津市内ニ駐編セシメ其ノ最モ甚シキハ軍隊ヲシテ保安隊ノ  
 服装ヲ爲サシメ日本軍陣地前ニ配置セリ我方ヨリ之ヲ詰問スルコト敢  
 次ナルモ敢ヘテ反省セス  
 五 赤十字旗ヲ掲ケタル保安隊員若干名ハ我陣地前二三百米迄接近シ突然  
 我陣地ヲ射撃ス是レ國際公法ニ違反セルモノニシテ人道上默許シ難シ

六保安隊數十名ハ狼リニ米國々旗ヲ掲揚シ我射撃ヲ避ケントシ或ハ外國  
關係ノ建築物等ニ殊更ニ近ク陣地ヲ構成シ之レヨリ盛シニ射撃ヲ加ヘ  
タリ之レカタメ<sup>天津</sup>米國領事ハ支那側ニ抗議セリ

七日支那軍使支那街ニ於テ交渉後日本軍使我カ陣地内ニ歸ラントス  
ルヤ支那兵ハ後方ヨリ之レヲ射撃ス國際公法ヲ蹂躪スルモノナリ

八由河ノ船舶航行ハ條約上其ノ自由ヲ認メラレアルニ不拘葛沽ニ於テ支  
那軍ハ事件發生以來日本船ニ停船ヲ命シ之レニ服ササルモノニ對シテ  
射撃セリ又旅客及荷物ヲ臨檢シ且ツ支那船員ヲ脅迫セリ

九日本軍ニ屈服セル支那人ハ之ニ關シ支那官憲ヨリ束縛セラレサルハ條  
約ノ認ムル所ナルニモ不拘日本軍ニ使用セラレアルノ理由ノ下ニ殺害  
セラレ或ハ脅迫セラレタルモノアリ

一〇二十八日日本軍ハ支那街居住外人避難ノ爲一發ノ應射キナササリシニ  
支那側ハ却テ此ノ機ヲ利用シ陣地ヲ増築シ我ヲ狙撃シ現ニ午前十一時  
十五分我歩哨ハ美以美教會(米國系)前ヨリ狙撃セラレ兵一重傷ヲ負  
フニ至レリ

一一支那軍ハ我威重ナル抗議ニモ不拘常ニ甯開女子中學ヨリ軍司令部方向

ニ射撃シ其ノ彈丸ハ家屋ヲ越ヘテ佛軍陣地ニ著達シ其他各國租界ニ飛  
來ス

## 北支支那軍憲民衆ノ對日態度

本年六月朝鮮事件、中村大尉事件等惹起スルヤ、北支軍憲、民衆從來ノ排日、侮日ノ傾向ハ更ニ倍加シタリ。途中石友三事件ノタメ一時鎮靜ニ歸シタルモ、之カ終局ヲ見ルヤ、果然再燃シ、黨部及民衆ハ激烈ナル日貨排斥ヲ斷行シ、支那官憲ハ我カ外交官憲ノ警告ヲ受クルコト、數次ナルニモ拘ハラヌ恬然トシテ改ムル處ナシ。

他面支那官憲、軍隊ノ日本軍ニ對スル侮辱的態度益露骨ナルモノアリテ、軍人中對日宣戰ヲ呼號スルモノ少ナカラサルニ至レリ。山海關附近ニ於テ支那軍隊カ我鐵道守備部隊ノ鐵道橋通過ヲ兵器ヲ擁シテ拒止シタルカ如キハ、其一例ニシテ帝國軍ノ有スル條約上ノ權利ヲ求メテ蹂躪セントスル傾向ニアリキ。又天津、北京、山海關、秦皇島、塘沽守備隊間ノ連絡兵等カ支那軍人ノ侮辱ヲ蒙ル事頻々トシテ、此儘ニ推移セハ兩者ノ衝突惹起ノ虞アリシヲ以テ終ニ其ノ兵力ヲ増加セサルヲ得サルニ至レル等軍ニ對スル侮辱的行動、尠カラサルニ至レリ。又滿洲事變後ハ對日侮辱事件益増加シ、軍人、市黨部又ハ學生ハ公然對日宣戰ヲ絶叫シテ敵愾心ヲ煽リ、特ニ婦人、小兒等ニ對スル暴行續出スルニ至レリ。

右ノ如キ支那側ノ態度ハ實ニ公明ナルヘキ國交ノ軌外ニ出テタルモノニシ

テ條約ヲ無視シ經濟的ニ宣戰シ我帝國ノ名譽ヲ傷クルモノナリ  
此ノ如キ狀態ニ於テ天津事件ヲ惹起シタリ事件中ニ於ケル支那側ノ態度亦  
前述ノ如シ依之觀之將來ニ於ケル支那側ノ對日態度想半ニ過クルモノナリ

## 第四、軍ノ方針

軍ハ終始嚴正中立ニシテ支那側ノ何レノ行動ニモ干與セス殊ニ屢次ノ支那側ノ不法暴戾ナル挑戦ニ拘ラス隱忍自重只管消極的ニ居留民ノ保護、租界ノ掩護ヲ爲スニ止メタリ

此レ蓋シ天津附近カ各國人錯綜居住シアルニ鑑ミ軍トシテハ友邦各國ノ人命及利益ヲ尊重シ其ノ安寧福祉ヲ亂ササランコトヲ切ニ希望シタルト事態擴大シ日支間ノ大不祥事トナルヲ極力避ケントスルノ結果忍フ可カラサルヲ忍ビ多數ノ死傷者ヲ出シ憤激スル第一線ヲ極力抑制シ其ノ應射ノ如キモ眞ニ止ムヲ得サル時ノ外此レヲ爲サシメサリキ

抑我陸軍一貫ノ精神タルヤ不法ノ挑戦ニ對シテハ對手ノ兵力ノ如何ニ大ナルニ不拘敢然立チテ之レヲ鏖チ全滅亦意トスル所ニアラス一意正義ヲ擁護スルニアリ如此精神ヲ有スル軍隊ヲ以テ前記ノ如キ侮辱ニ甘ンシ專心消極態度ニ終始スルコトハ實ニ至難中ノ至難ニ屬シタリ

今ヤ當地方ハ平靜ニ復歸シツツアリト雖モ濟南虐殺事件ヲ始メ滿洲ニ於テモ當地方ニ於テモ支那側ノ不價的行爲ニヨル苦汁ヲ屢滿喫シ來レル日

本軍カ其ノ和平的態度ニ拘ラス將來又支那軍キ依ツテ挑戰的、背信的行  
爲ヲ繰返サルルニ當リ幾何程度ニ隱忍シ得ルヤハ自ラ疑ハサルヲ得ス如  
此場合吾人ハ事端發生ノ責任ニ關シ全然關知スル能ハサルモノナリ